

「神が選んだ三人」

マタイ 17:1～9、ヨハネ 11:1～44、マタイ 18:15～20

はじめに

今回はイエシュアが愛された、すなわちお選びになった「三人」の存在について述べたいと思います。その前に、神は御父、御子、御霊の三位一体なる御方であり、またその神のご計画の完成である「神の国、御国」もまた神によって選ばれた三つの存在によって構成されていることを確認しておきたいと思います。その「神の国」を構成する三つの存在とは

- ① シオンとも呼ばれるエルサレム（神殿）
- ② アブラハムの子孫であるイスラエルの民、ユダヤ人
- ③ イエシュアの花嫁とも呼ばれる教会

の三つです。これらはすべて神のご計画の完成において絶対必要不可欠な存在です。当然のことながら、イエシュアの思考、御心は御父のそれと全く一つですから、これから述べるイエシュアがお選びになった「三人」の存在もまた同じものを指し示していることとなります。ではそれらはイエシュアの言動、行動、出来事の中で一体どのような形で表されているのかを見てみたいと思います。

1. 変貌山の三人

【新改訳 2017】マタイの福音書

- 17:1 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。
- 17:2 すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。
- 17:3 そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。
- 17:4 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることは素晴らしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」
- 17:5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声があった。
- 17:6 弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。
- 17:7 するとイエスが近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない」と言われた。
- 17:8 彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。
- 17:9 彼らが山を下るとき、イエスは彼らに命じられた。「あなたがたが見たことを、だれにも話してはいけません。人の子が死人の中からよみがえるまでは。」

まずイエシュアがお選びになった「三人」と言えば、この変貌山の奇蹟における「ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネ」が挙げられます。これが先ほど述べた「神の国」の三つの存在を指し示している「型」であると考えれば、まずヤコブはイスラエルの民を指し示していると考えるのが自然であり聖書的です。となりますとこのイスラエルに繋がる私たち異邦人の教会は「その兄弟」とあえて記して

いるヨハネと考えるべきです。すると必然的に残るペテロがエルサレムを指し示す存在ということになりますが、他にもこの出来事の中でペテロが語った言葉の中にその理由が見受けられます。彼はここで「17:4…私がここに幕屋を三つ造ります。」と言っていますが、この幕屋とはすなわち神殿のことです。聖書全体を通してエルサレムには合計四つの神殿が建てられます。それはソロモンが建てた第一神殿、そしてバビロン捕囚から70年後に帰還したユダヤ人たちが建てた第二神殿、そしてこれは今日もまだ建てられてはいませんが、終わりの時代の7年間の大患難時代の中で、獣と呼ばれる反キリストがそこに立つことが預言されている第三神殿、そしてエゼキエル書にその詳細が記されている、イエシュアが地上再臨された後に建つと考えられる第四神殿、これらの神殿が建てられた、あるいは建てられる場所は全てエルサレムです。このうちの第四神殿が千年王国、メシア王国とも呼ばれる「神の国」の中核となる真の神殿となりますので、第一から第三までの三つの神殿は無に帰される存在です。これがペテロが語った三つの幕屋、建てると彼が宣言しながらも、実際には建てられなかった、すなわち無に帰された幕屋、これを語ったペテロの存在がエルサレムを指し示していると考えられる根拠がここにあります。

「神の国」とはメシアであるイエシュアが栄光に輝く御国です。それがイエシュアが「17:2 顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。」という出来事に表されています。またここで律法の筆者「モーセ」がイエシュアとともに立つ様子は「神の国」が律法を遵守する御国であることが示されており、そして同じく「エリヤ」の存在は、この出来事後の17:11でイエシュアが「エリヤが来て、すべてを立て直します。」と語られていることから、「エリヤ」は再建、回復の象徴であり、「神の国」が地上の再生、エデンの回復を意味していることを指し示していると考えられます。そして「17:5 見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。」という出来事は、「神の国」が御子イエシュアにのみ聞き従う御国であることが表されていると考えられます。またイエシュアはこれらの出来事を「17:9 あなたがたが見たことを、だれにも話してはいけません。」と三人に命じられましたが、これは「神の国」がペテロ、ヤコブ、ヨハネの存在に指し示されたエルサレムとイスラエル、そして教会の上のみ成就する神のご計画であることが表されていると考えられます。このように変貌山の奇蹟には、エルサレム神殿を中心としたイスラエルと教会によって構成される「神の国」と、そしてそれがどのような御国であるかが表されたしるしと不思議であったと考えられます。

2. ベタニアの三人

【新改訳2017】ヨハネの福音書

11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。

11:5 イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

11:17 イエスがおいでになると、ラザロは墓の中に入れて、すでに四日たっていた。

11:35 イエスは涙を流された。

11:36 ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」

11:37 しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかったのか」と言った。

11:38 イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。
11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだラザロの姉妹マルタは言った。「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」
11:40 イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」
11:43 そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」
11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

これはベタニアの奇蹟と呼ばれる、死んで四日もたった人が生き返るという出来事です。この出来事もまた「神の国」についてのご計画を表したものであり、ここに登場するイエシュアに愛された「[マルタとその姉妹（マリア）とラザロ](#)」の存在がイスラエルと教会、そしてエルサレムを指し示していると考えられます。先ほどの変貌山の奇蹟でのヤコブとその兄弟ヨハネが、ここでは「[マルタとその姉妹](#)」に置き換えられており、彼女たちがイスラエルと教会を指し示していると考えられます。となりますと必然的にラザロがエルサレムを指し示しているということになります。このラザロの死に際し、「11:35 イエスは涙を流された。」とありますが、イエシュアがその公生涯で涙を流されたことが記されているのはこのことあともう一箇所だけで、それは以下のとおりです。

【新改訳 2017】ルカの福音書

19:41 エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。
19:42 「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら――。しかし今、それはおまえの目から隠されている。
19:43 やがて次のような時代がおまえに来る。敵はおまえに対して壘を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、
19:44 そしておまえと、中におまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らはおまえの中で、一つの石も、ほかの石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、おまえが知らなかったからだ。」

イエシュアはご自分が天に上げられた後、再びこの地上に帰って来られるまでに、ここに記されたエルサレムの神殿について起こる悲劇を予見して涙を流されました。ラザロの死の際に流されたイエシュアの涙は、この箇所に記された出来事との結びつきがあるとも考えられ、この事実からもこの奇蹟におけるラザロの存在がやはりエルサレムを指し示していると考えられます。そしてラザロはイエシュアによって「[四日](#)」目に生き返らされました。すなわち彼は三日間は死んでいたわけですが、これが先ほども述べた、無に帰された第一から第三までの三つの神殿と、イエシュアの地上再臨後に「神の国」において建てられる第「[四](#)」神殿を指し示していると考えられるわけです。このように、ベタニアの奇蹟もまた、ただ死人が生き返るという出来事ではなく、それを「型」とする「神の国」の完成を表したものであると考えられます。

3. イエシュアがともにいる三人

【新改訳 2017】マタイの福音書

18:15 また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります。

18:16 もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。

18:17 それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。

18:18 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。

18:19 まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。

18:20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

この御言葉は一見、人間関係における罪の問題を取り扱ったもののように捉えられますが、実名はなくともここにも前述した出来事と同様に「兄弟」の存在が記されており、「18:15 あなたは自分の兄弟を得た」とあるところにイスラエルと教会の結びつきを想起させ、また「18:16 二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。」とある記述からはイスラエルと教会、そしてエルサレムの三つの存在によって神のご計画の全てが「立証される」すなわち実現されることを思われます。また「18:19 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。」という、このような壮大な御言葉が、ただ人間関係の些細な問題解決のためだけに語られたものとは到底思えません。この箇所は明らかに天と地を一つにするという「神の国」のご計画の完成を指し示した記述です。そして

「18:20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」という御言葉、これもまた今日の小さな教会やクリスチャンの交わりを励ます程度のものではなく、イエシュアによって「二人」イスラエルと教会が結ばれ、そしてエルサレムにおいてともに「三人が」住むようになるという神のご計画の完成である「神の国」を指し示した御言葉であると考えられるのです。

このように、イエシュアは様々な類の出来事やたとえの中に同様のメッセージを隠し、その重要性を何度も繰り返して強調して表しておられると考えられ、その一つがこのイスラエルと教会、そしてエルサレムという三つの存在による「神の国」の成り立ちについてのものであると考えられます。今回取り上げた出来事はテーマにちなんで三つだけでしたが、他にもまだまだ多くの隠されたメッセージ、奥義が存在します。しかしそれらも全て「神の国」についてのご計画を指し示したものであると断言して良いと思います。イエシュアが命じられた、神の国と神の義を第一に求めることとは、御言葉の中に隠された神のご計画に関するメッセージ、情報に目が開かれること、目を留めることにあると信じ、これからもそれを目的として聖書に取り組みさせていただきたいと思います。